

# Okahata

## NEWS LETTER

vol.43

*Happy New Year*  
*A New Phase for Okahata*

2026

1

# 世界に航る Okahata No DNA

いままでも、これからも。  
岡畑興産は、若者の海外挑戦を応援します。

# SEKAI NI WATARU



# 2025年のお礼と、2026年へ

2025年も一年間、ONLを読んでいただき、  
ありがとうございました。  
お返事やご提案、サンプル依頼(!)までいただくこともあり、  
小さなキッカケ作りの一助になれたとすれば、  
編集長をはじめ、社員一同、これ以上の喜びはありません。

2025年、専門商社がお役に立てることは  
まだまだあると信じ、  
「しごとをあそべ!」(ONL40)、  
「没入」を「競合のいない場所」へ向けよ (ONL41・42)  
と叫びながら、面白い人とビジネスが集まる  
シン・本社のリノベーションを行いました。  
まだ来られたことがない方は、第3木曜日にぜひ(後述・笑)。

2026年、岡畑興産は80歳を迎えます。  
擦り傷も宝物も多かった80年。

次のフェーズは、80歳だからできるベンチャーを。  
専門商社の「お役立ち方」イノベーションを。

(80周年のお祝いは、4月にグループ社員約120名みんなで沖縄へ)

2026年も、  
岡畑にしかできない材料、アイデア、考えるヒントを  
“カテゴリー岡畑”なニュースレターとして、  
お届けしていきます。  
本年も、ONLと岡畑興産グループを  
よろしく願いいたします。

岡畑興産株式会社  
Okahata News Letter 編集長 岡畑 典裕

# “岡畑清風奨学金”から SEKAI NI WATARUへ

～岡畑興産は、昔も今も、  
若者の海外挑戦を応援しています～



社長です。

2025年10月から、サッカーの世界トップチーム、  
リバプールFCでプレーする遠藤航選手の立ち上げた  
“SEKAI NI WATARU” [Link](#)  
〈サッカーに限らない親子向け留学支援プログラム〉  
へのサポートを始めました。

小学校高学年の子どもが、親と一緒に留学目的・場所・プログラムを自ら考え、最適解を決めていくというツボを突いた秀逸プログラム、才気溢れるSEKAI NI WATARUの若きメンバーに惚れ込んで、二つ返事でパートナーに。宇佐美、KODANSHA、Medical Shiftという強力布陣の末席にOkahata(笑)。



若者たちの海外挑戦を応援するのは岡畑興産のDNA。  
今も昔も、岡畑興産は、若者たちの世界への挑戦を応援  
してきました! (社長の思いつきじゃない、と言っておきたい 笑)

## “岡畑清風奨学金”と 海外駐在猛烈後押し制度:

2007年に、大阪国際交流センターとのご縁で「清風奨学金」を立ち上げ、中国12名、ベトナム・ネパール・インドネシア各国1名ずつ累計19名の外国人大学生の日本留学をサポート。海外の若者の日本での挑戦を支えたい、アジアでビジネスをする岡畑興産からアジアへの恩返し、という先代の思いから始まった取り組みで、その一期生は、弊社東京でチームリーダーをしている張巍さん↓

[張巍さんの熱い人々インタビュー] [🔗 Link](#)



「清風奨学金」は2024年をもって終了しましたが、近年、**社員の海外挑戦を猛烈に後押し中。**

- 2019年から社員のフィリピン留学制度をスタート  
(累計5名、常時募集中)
- 2023年以降、若手中堅社員を積極的に海外駐在に送り出しています。  
(23年:木下さん@ポートランド、竹内さん@上海、  
24年:尾崎さん@ソウル、26年??@ムンバイ)

## 若者と海外へ、 強みというトーチをつなぐ、 未来をつくる:

弊社の経営幹部の多くは、海外“出島”体験で身につけた**ヒリヒリ感(≒責任感)と「ズレ」**を強みに変えてきました。

そのトーチを、次の世代へ。できるなら、より良い形でつなぐ。それが大人の務めだと思っています。

## アンチテーゼ、 僕の根っこにあるもの (ソース・オブ・エナジー):

これは、「最近の若者は海外に行きたがらない」とかいう無配慮無責任な一部の大人の発言・報道に対するアンチテーゼでもある。たとえ世の中のトレンドがそうだったとしても、僕の周りにはそうはさせない。**若者が海外に行こうと思える希望や舞台を準備する側に立つ**。「岡畑興産の“最近の若者”は全然違うし、うちは若者たちに海外挑戦機会のある会社だぜ」の有言実行、ホントそれだけ。  
(僕が「最近の若者は...」を禁句にしている理由もここにある)

そんな想いを、SEKAI NI WATARU1期生(小学校高学年の6名)とご両親に伝えるために、キックオフ会で読んでいただいたメッセージがこちら

SEKAI NI WATARU みなさんへ、  
SEKAI NI WATATTAおじさんからのメッセージです。  
まずは自己紹介。

13歳: アメリカ短期サマースクールへ。  
20歳: 日本を飛び出し、アメリカの大学へ。  
30歳: 上海で駐在、中国語で仕事をしていました。  
40歳: 商社の社長になり、  
英語の経営書を読むようになりました。  
50歳: アメリカで起業しました。

僕のSEKAI NI WATARU人生は、中1サマースクールから始まりました。あの一歩があったからこそ、アメリカの大学にも、中国駐在にも踏み出せた。そして、日本という小さな池ではなく、もっと大きな世界を意識できるようになりました。

みんなの世界への一歩は、今日ここから始まります。その冒険に向けて、僕と3つだけ約束してください。

- 1) **Listen**: ご両親、SEKAI NI WATARUチームとよく相談してください。
- 2) **Commit**: 決めたことは、最後までやり切ろう。
- 3) **Speak and Ask**: 通じてなくてもいい。ニコニコ大きな声で喋ろう／質問しよう。

どんな世界が見えたのか、みんなのお話を聞ける日を楽しみにしています。

さあ、SEKAI NI WATARE !  
I wish you way more than luck.

## 最後に、 余談のような大事な話:

① 遠藤航選手をリバプールFCに呼んだのは、僕の理想のリーダー、**ヨルゲン・クロップ**前監督。彼は、“心理的安全”という言葉が流行る遙か前から、選手に寄り添って、人から始まるチーム経営をしていました。“ヘビーメタル・フットボール”という旗印の下、走り追いたてまくる(その実、戦略的な)観ていて楽しいサッカーで成果をあげ続けた大監督。新米社長だった2018年の頃かな、クロップ監督に憧れて「うちは“ヘビーメタル・専門商社”だぜ」とばかりに、手数多く楽しい人中心の商社経営を夢見ていたのは、ここだけの話。

② クロップ監督の遠藤航評／呼んだ理由↓

“Wataru is a really good player… machine on the pitch, good footballer on top of that, sensational attitude.”

“We really need you… your heart, your legs, your football brain.”

情報源: [🔗Link](#)

遠藤航を岡畑興産に置き換えると、

“**岡畑興産 is a really good company, an engine in the industry, sensational attitude. We really need you… your heart, your legs, your business brain.**”

って、まさに岡畑興産の目指す姿。このパラグラフに、岡畑興産がSEKAI NI WATARUと遠藤航選手に共感しまくる全てが含まれているのです。

SEKAI NI WATARUはすでに2期生募集中。3期、4期と末長く応援していきますので、続報をお楽しみに！  
(リアル遠藤航選手が登場するかも～)

SEKAI NI WATARU関係者の皆さま、素晴らしいご縁をありがとうございました。子供たちとご両親の皆さん、  
You'll never walk alone!

## 最近のフットウェア

by 米本です。



### スニーカー界の“レジェンド”たちの 世代交代は始まるのか

**レジェンダリー・スニーカー**なるものとは皆さんご存じでしょうか？ ファッションに影響を与えたモデルやロングセラーで文化的地位の高いモデルなどの製品を指します。

マイケル・ジョーダンが現役時に履いていたAir Jordanシリーズ、NikeのAir Force、Adidas社でいえば、SuperstarやStanSmithなどの製品がそうです。市場に出せばその高い人気から必ず売れるとされてきたスニーカーです。

最近では新興ブランドの台頭や、あまりにも長すぎた人気からその需要が下火になってきたといわれています。ブランドの現役靴デザイナーたちとの話では、昔の遺産にたよっている状況に忸怩たる思いをもっている方もいますし、やはり、未来のレジェンダリー・スニーカーを創出したいと、そのプライドを奮い立たせている方も少なくないように思います。

レジェンダリー・スニーカーといっても、もう30年近く前のものがほとんどで当時のハイテクスニーカーは確かにエアだのポンプだの従来の履物からデザイン、機能ともに革新的なモデルが次々と登場したのを覚えている方もおられるでしょう。



ある人はこういいました、スニーカー製品はあの90年代におおよそ完成しつくしてしまっているのだ、と。では未来のレジェンダリー・スニーカーはもうでないのでしょうか？ ちがうでしょ？ 時代でかたづけるなかれ、切り口を変え、**現在の素材でゲームチェンジャーとなる靴、30年後のレジェンダリー・スニーカーはつくれます**、と鼻息の荒い靴野郎からの最近のくつナビはこちら：

## ＼ 最近のくつナビ /

■ レジェンダリー・スニーカーといえば、  
「コートシューズ」：[👉Link](#)

■ 2025年のトレンド靴  
「ロープロファイル」：[👉Link](#)

次世代レジェンダリー・スニーカー創りに向けた、  
靴の基礎講座1

■ 靴底(アウトソール)：[👉Link](#)

■ 靴の木型：[👉Link](#)



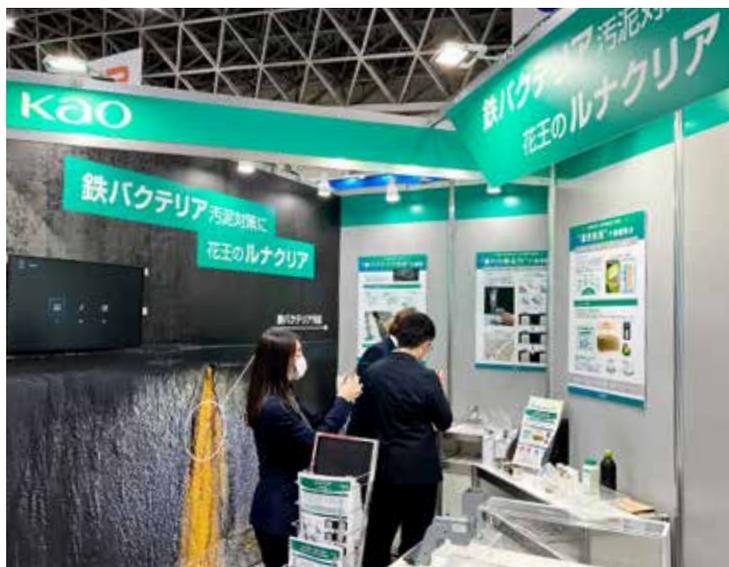
# 最近の化学品 1

by 佐藤です。



2025年鉄道技術展  
交通インフラ分野への提案営業は、  
デザインとの二刀流!

ONL42 “はたらく化学品”鳥瞰イラストが、鉄道技術展(11月下旬@幕張メッセ)の花王さまブースで採用されました!



↑ ONL表紙が展示会デビューする歴史的瞬間。

参考:花王株式会社 [Link](#)

「『第9回鉄道技術展2025』に「ルナクリア」「ルナフロー」を出展」

弊社営業もブースベタ付きで、

**ルナクリア**：地下路線での鉄バクテリア汚泥の除去

**ルナフロー**：列車台車、駅舎ホーム施設の雪や汚れを「滑らせて」付着防止 を喉を枯らせながら、説明させていただきましたが、ブースで一番ウケが良かったのは、こちらの実験↓



「雪や汚れ(鉄粉など)、はたまた、落書きインクを、表面をすべらせることで固着させないので、清掃もゴシゴシ要らず」(ONL42)というのも、このYouTubeを見れば、一目瞭然。

[Link](#)



● 落ち葉や、ホーム設備の汚れ付着の防止

● 橋やシャッターの落書き、テーマパーク清掃簡便化

など、たくさんの具体案件の相談をいただきました。足を運んでいただいた皆さま、ありがとうございました!

## 最近の化学品 2

by 坂出です。



2026年はインド、本格始動です。



2023年、フットウェア事業は、販売を始めて足掛け40年で、念願のポートランド駐在員にエース(笑)木下さんを送り込みましたが、[エース木下さん抜擢記事](#) [Link](#)

2026年、化学品事業も、足掛け30年、満を持してのインド・ムンバイ進出を予定。ナリマンポイントに駐在事務所(Okahata India)を設け、エース(笑)を送り出します。

狙いは、**香粧品原料のインド市場への販売**。インドは今後の香粧品市場拡大が確実視されており、弊社でも数年前から、本格進出の準備を進めてきました。

ナリマンポイントは、弊社と長年の協力関係にあるインド大手化学品商社ブラックローズの拠点があるムンバイ近郊の、ビジネス・商業地区です。この地で、ブラックローズ社との協業枠もさらに拡大しながら、インドビジネスを本格的に展開していきます!

そして昨年11月は、現地の様子とインド市場の“今”を掴みに。ワタクシ坂出の最新出張レポ↓ぜひご覧ください!

■「ムンバイで感じた熱気と2026年の展望」[Link](#)

### ／ その他、インド関連記事 ／

■ 2022.10.14 / 岡畑興産ブログ [Link](#)

岡畑興産&Black Rose(ブラックローズ)のインドソーシング・受託ビジネス(菅澤)

■ 2020.07 / ONL3 [Link](#)

ONL第3号、懐かし〜

香粧品・衛生品周りのインド原料、はじめました。(萩田)

## 最近の化学品 3

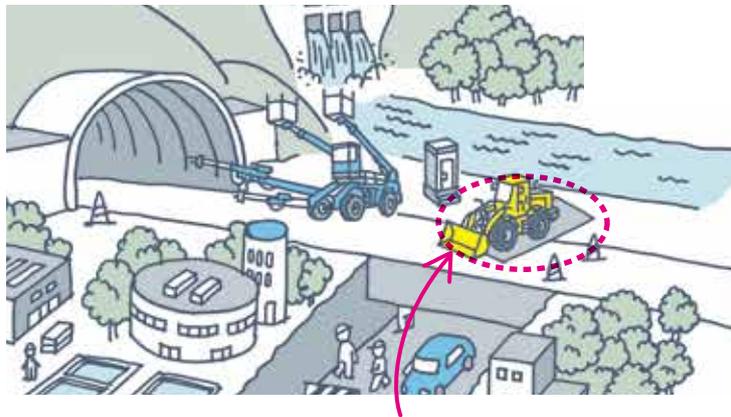


by 香りに夢中 萩田です。

### ニオイが変われば、ビジネスが変わる part 2

臭いチオグリとその悪臭を香りの一要素として捉え、心地よい香りに仕上げる技術、ハーモセント香料のお話ブログ  
→ [■ チオグリコール酸アンモニウムとは？](#) [👉Link](#)

臭いが課題になりやすいリサイクル・ゴムやリサイクル・プラスチックへの香料適用、実はすでに動き始めています。



たとえば、マット。ONL42表紙をよく見ると、さりげなく実証実験プロジェクトが。

気になった方は、岡畑興産の担当まで、お声がけください。

26年こそ、“[臭くないリサイクル・ゴム](#)”、“[臭くないリサイクル・プラ](#)”を広めていくために、ユーザーさま事例集、ハーモセント技術インタビューを企画妄想中。続報、ご期待ください。

### ＼ においだけじゃない、化学品ブログ /

- [PFAS規制に対策!](#) [👉Link](#)
- [イオン交換樹脂とは?](#) [👉Link](#)
- [ジエチレングリコールモノエチルエーテルとは?](#) [👉Link](#)

26年も、コンテンツ二刀流営業、岡畑興産／化学品事業をよろしくお願いします。



再び  
社長です。

## お漬物と、成長し続ける岡畑興産の 「熱い人々」ブログ

弊社に入社される方が必ず読む、岡畑興産の名物インタビュー・ブログ「熱い人々」。

2022年から、ライターの藤原さんに社員インタビューをお願いし、リーダーの学びの習慣を探る、“**リーダーの頭の中**”シリーズをスタートしました。

24年からは、**若者から学ぶ**インタビューシリーズを。普段はあまり聞く機会のない、彼ら彼女たちの根っこを知ることができる、社内の僕たちにとっても、貴重なインタビューなのです。

ますます充実の2025年制作5本=5人の“熱人”たちをご紹介します前に、熱人長文(笑)ライター・藤原さんから。

2022年から始まったこの熱い人々シリーズ。

忘れもしない3年前の春、カウンターで二人、お昼ご飯を食べながら、岡畑社長から、「社員コラムを作りたいんです、美味しい弁当の漬物みたいな。うちのコンテンツは“専門性”というおかずはそれなりに充実してきたけど、遊びというか、漬物が足りない弁当なんですよ。漬物で弁当を選ぶことはないけど、無かったら物足りない。添えているだけで、弁当全体を美味しくしちゃう、そういうコラムをHPに」と、熱く語っていたのが、このシリーズの始まりでした。

いざ、インタビューが始まると、「コラム」どころか、「短め短編小説」くらいの文字数になってしまい、編集部さんを毎回、困らせてしまってます。

ただ、一つ言えるのは、「熱い人々」が会社に向けて語る「熱い思い、歴史、人柄」が、僕のキーボードとカメラのシャッターを押す手を止まらなくさせているのです。

今の時代、インタビューを録音し、AIにお願いすれば、いとも簡単にまとめてくれるのですが、熱い人々の言葉は、AIには聞こえない「気」があるように思えて仕方ないのです。アナログで感じた言葉は長くなり、デジタルでは表現出来ない「味わい」が出てると思います。

もし今、悩んだり、落ち込んだりしてる人がいれば、彼ら彼女たちの言葉から、元気や勇気をもらって欲しい。少しだけ、一歩前にチャレンジしてみようと感じるはずですよ。

僕は常々、「先輩から学ぶことより、後輩から学ぶことの方が価値がある。お客様から学ぶものとは違う何かがある」と、思っています。このインタビューは、僕が「人生の後輩」から勉強させていただいた、長い長いコラムです。(ふたりの大先輩を除いて)

もう、「漬物」から「おかずの一品」になってる気がします。熱いうちに・・・Bon appétit

株式会社シーブリーズ 藤原

## ▼2025年の熱い人々 #藤原さんシリーズ



2025.11.19 [👉Link](#)

化学女子x韓国コスメ愛ー営業未経験から化粧品原料営業へ

2025.09.29 [👉Link](#)

史上最年少MVP・入社3年目が語る | 準備力で「失敗から学ぶ」を超えてゆく

2025.05.13 [👉Link](#)

私、失敗しないんで。

8年目経理リーダーが、大企業より中小企業を選んだ理由

2025.04.16 [👉Link](#)

チームに支えられる、ひとりコンテンツ担当者の挑戦と岡畑興産のこと

2025.01.16 [👉Link](#)

やっぱり化学が好き! 答えがないもの追いかける岡畑トップ営業マンは、“まずやってみる”

---

## ■ 編集後記

### 永遠のいま

(社内報Gazette2025年12月号より転載)

2025年もあと半月ほどとなりました。皆さんにとって今年はどうな年でしたか。今年の感動も来年のワクワクもあまり感じなくなったのは、歳をとった証拠でしょうか。それでも、これを逃したら多分もう一生見られないかもしれないという焦りにも似た気持ちからか、アンゼルム・キーファーの「ソラリス」(二条城)、「異端の鬼才 ピアズリー」(三菱一号館美術館)など、映画や音楽会、展覧会に行きまくった1年でした。

多分今年行く最後の展覧会だろうと思い、「柚木沙弥郎 永遠のいま」(オペラシティ)を見に行ってきました。珍しく撮影禁止ということで、撮影時のスマホのピコピコ音やどうしても真正面から写真を撮りたいと長時間陣取る人々の肩越しから眺めるイライラ感もなく、じつくりと鑑賞できました。

昨年101歳の生涯を閉じた柚木沙弥郎ですが、亡くなる二カ月前まで制作を続けていたといえます。柳宗悦らによる民藝運動に出会い、芹沢銈介のもとで染色家としての道を歩みはじめた柚木ですが、マチスを彷彿とさせる挿絵やコラージュなど、ジャンルを超えた「モダン」な作風は終生変わらず、好奇心を忘れず「いま」を楽しみ、精一杯生きることの大切さを教えてくれます。

明日でいいか〜、そのうち行こうか〜と、だんだんとアクションが遅くなりつい機を逃してしまう昨今、彼の作品を見ながら、「チャンスには前髪しかないんだよ。アツと思った途端つかみ損ねてしまう。思っていたいまがチャンス」と幼い時に母から言われたことを思い出しました。

2025年の終わりに柚木さんの言葉を皆さんに贈ります。

毎日がね、新しい今日なんだよ。

今日をね、いかに大切に思うか、それによってその日の仕事ができるわけ。

それを積み重ねていけば一生涯の仕事なんだよ。

今日という、一番新しい自分の境地を生かす。

飛び出せ、毎日ね。

そういうのを毎日毎日続けていけば、生涯っていうのはいい人生になると思うな。

一年の投稿とご愛読ありがとうございました。来年もよろしく願いいたします。

良いお年をお迎えください。(kiki)

ニュースレター  
バックナンバーはこちら



Okahata  
NEWS LETTER  
—  
BACK NUMBER

---

岡畑興産株式会社 ニュースレター／不定期発行  
2026年1月6日号  
発行：岡畑 典裕

**岡畑興産株式会社**

大阪府大阪市中央区島之内1-5-6  
TEL：06-6251-8252 FAX：06-6251-8278

Okahata  
OKAHATA&CO.,LTD

OKAHATA NEWS LETTER  
2026.1.6 / Issue 043

© 2026 オカハタとアイデアと